

教養」への「不登校を避ける」の
不登校・ひれいからつじ地域に求められるわ
うやどもと歩む保護者たちの想こころの
添つてく

ツクを愛するもので、だから相談に来たときに、そのお母さんは深刻な形相で涙ながらに必死で話してくれました。

【田嶋】2019年1月26日(土)午後
2時～4時30分

[תעודה] מילויים 2013 (בבבון) (הנפקה)

名誉教授

(巡回の工作)のトーストが聞こえました

二どもは何か問題を見つけるとその原因を二どもに求め子どもを変えるように働き掛けようと/orする傾向が最近再び顕著になつてゐるのです。

HSCという新しい診断名もそのような意識の中で使われた可能性があると思われました。この妹さんの場合、もしもお兄ちゃんが元気に学校に行

つてこだりお母さんの様子も落ち着いていただ
けで、その手は「私もお兄ちゃんみたいに休み

たい」とは言わなかつた可能性が高いからです。不登校をしているお兄ちゃんを見て私もちょっ

と休みだしたと思へ、兼や妹[よしめ]少なくありません。これは以前から多くのケースで見られてきた。

れずに解決してきた例が沢山あるのです。でも先生からも医者から HSC とこの診断名を聞か

されたのであったが、お母さんの抱しみせられせり
だつたでしょ。『お兄ちゃんはかりになくて妹
も』と思つた瞬間に、このお母さんに跟ひゆ母親
とうものは私の子育てがダメな子育てだった
と焰印を押されたように感じてゐるのですが

家庭に助けを求めた子どもたち、それが不登校。そこでの話題を踏まえて次にお話ししたのは、子どもたちが不登校になることには家庭に助けを求めてくれたという意味があることです。もしも学校の中に何らかの逃げ場があれば、

学校の中で助けを求めてくれるかもしれないけど、残念だけど学校の中には逃げ場がない。それでもやうやく子どもたちも安心できる逃げ場をじこに作るかじこにとを課題にして放送室や保健室や相談教室を逃げ場にしやく、そんなことを考えて実践している先生たちが多くはないですかいりつしゃいます。私は、そんな先生たちは特筆すべき理解者であり、実践家だと思っています。でも押しなべていうと残念ながりやういう実践は今日の学校現場では歓迎されていないようですね。それで子どもたちは家庭に逃げ場を求めるしかないわけです。なぜなら家庭と学校以外には社会の何処を見渡しても逃げ場が無いからです。そつこして家庭に助けを求めたときに子どもたちはじんな症状を示し、じんな状態になるのか。今までの経験を分析すとそれには大体3つの状態がありますが、私はそれを三つのシグナルと呼んでいます。

子どもたちに表れる三つのシグナル
一つ目は、症状として表れるシグナルです。まるで病的のような症状として表すのです。例えば不登校の多くの子どもたちは最初に腹痛や頭痛を訴えます。経験的には小学校3年生以下の子どもたちは自分の思いを言語化できるほど言語能力が成熟していないことがあるのですが、その子どもたちは腹痛を訴えるケースが少なくありません。だから親たちは内科や小児科に連れて行つて何か異常がないかと診て貰うのですが、お医者さんは内科的には問題はないので何か精神的なものでしようかと助言していくのです。ここで親たちはハタと困るのです。心療内科なんかそれとも精神科などと考えて、そこから深い葛藤が始まつて相談にじかれらるのです。

国分寺市不登校を考える親の会（あぐら草の会）

通信248号 2025 10月27発行



次回の定例会は11月22日です。定例会は第四土曜日2時から4時。会場はひかりプラザの予定です。地域を問わざじなたでもご参加ください。参加無料、予約も連絡も不要です。

わいわい草の会よりおじこか 7, 8, の円の定例会は、空調故障でひかりプラザが使えなくなり、7, 8, の円は会場を変更しました。今後も変更する可能性もありますので、会場についてはお問い合わせ下さい。

カット（キンモクセイ）

事務局 石井ひろ子 042-502-7558(電話番号メッシュや
ービーを入れてください。おつかれさまです。) やくはの草の
会のホームページへようこそ。
<http://inomack.wixsite.com/sakurasounokai>
